

# 花 き

## 実 況

### 1 キク

あわら市の露地ギクは9月15日調査は彼岸出荷用の「サヤカ」「リボン」「エミ」で9月上中旬が出荷ピークとなり、昨年より開花は早まった。寒菊は「雪まつり」が21.5cm、16枚であった。病虫害はアブラムシ類が少発生である。

福井市の露地ギクについては、9月11日調査で「リボン」草丈90cm、「紅馬」95cmで、彼岸出荷のキクでは品種間差はあるが出荷は順調である。黒さび病、ダニ類、スリップス類が小発生である。

奥越では、9月17日調査で9月咲きの「くるみ」(黄)が104cm、「映虹」(赤)が95cmとともに9月中旬開花。芽なしの「松本城」(黄)が78~150cmで、生育は平年並みである。和泉のキク出荷はほぼ終了した。

暮れ植え用のかき挿し苗養成は順調で、10月上旬に暮れ植え畝が多く作られた。病虫害では、「くるみ」、「福寿」等の10月出しにオオタバコガ、ハスモンヨトウが中発生、ダニ、アブラムシが小発生である。

南越の9月咲きギクの9月17日調査で「わかさ」「かがやき」「おちゃめ」は100~110cm、9月上中旬に出荷された。一部の圃場で9月上旬の日照不足の影響から生育遅れと根の障害による枯れ上がりが発生した。防除の徹底から、ヨトウムシ類の被害は少ない。アザミウマ類が小発生である。

丹生の9月17日調査の9月咲きギクは「カルメン」草丈95cmで出荷始め、「すいこ」110cmで出荷始めの状況である。全般的に開花は平年並みで9月上中旬から出荷始めている。一部の圃場でアザミウマ類が微発生。10月咲きギクは「マルシェ」草丈120cmとなっている。生育は順調である。

二州の9月咲きキクの草丈は、9月16日調査(昨年9月18日調査)で、「しらさぎ」が草丈78.0cm(昨年79.2cm)、「映紅」が草丈76.6cm(昨年69.4cm)で収穫終了、「わかさ」が草丈93.8cm(昨年98.6cm)、蕾径10.2mm(昨年開花盛期)であった。開花は全体に早めであった。病虫害ではアザミウマ類が少発である。10月咲きキクは、「ふるさと」が草丈72.0cm(昨年61.4cm)、蕾径4.4mm(昨年7.0mm)、「お吉」が草丈71.2cm(昨年73.4cm)、未出蕾(昨年蕾径3.1mm)となっている。

若狭の9月咲き小ギクの草丈は、9月16日調査(昨年9月19日調査)で「楽園」が草丈89.8cm(昨年99.0cm)、「みゆき」が103.8cm(昨年草丈86.6cm)で開花始めである。「妖精」「たちばな」「おりがみ」等は収穫を終了している。病虫害ではアザミウマ類、メイガ類が少発である。

### 2 スイセン

丹生の7月下旬に定植された促成栽培は、8月下旬ころから発芽がみられた。季咲きス

イセンの花芽分化状況や発達は圃場によりばらつきがある(9月15日調査)。

### 3 トルコギキョウ

坂井は、9月8日調査で8月4日に定植した苗が草丈25cm(昨年25cm)である(昨年9月26日調査)。品種は「ロベラピンク」「北斗星」「レイナホワイト」等であった。

南越では9月17日調査で、8月1日定植の「サルサマリン」の草丈が25cm、「ボヤージュグリーン」55cm(60cm)、「アンバーダブルグリーン」60cm、「天てまり」50cmである(昨年9月12日調査)。

### 4 ストック

坂井は、8月7日直播「ブルーアイアン」が9月11日調査で草丈13.5cm、14枚、「ホワイトアイアン」が14.2cm、8月26日直播で子葉が展開直後であった。

南越のカルテットシリーズは8月20日から9月中旬まで、連続的に播種されており、草丈は9月17日調査で、8月20日播種が葉数4枚、草丈5cm(葉数4枚、草丈7cm)であった。8月27日播種で葉数1枚、草丈2cm程度であった。9月12日播種は発芽中である(昨年9月12日調査)。

若狭では、9月16日調査で、7月中下旬に直播したアイアンシリーズが草丈20cm、カルテットシリーズで草丈20~25cm程度、8月上旬に直播したアイアンシリーズ、カルテットシリーズでは草丈10cm程度となっている。病虫害はハイマダラノメイガが少発。

### 5 その他

福井の切り花用ハボタンの草丈は、9月11日調査で「晴姿」50cm(40cm)で、「初紅」55cm(45cm)で、「ウインターチェリー」48cm(4

場所	作型	品種	定植時期	草丈cm	調査日
福井北部	雨よけ	初紅	7月17日	50	9月11日
		晴姿	7月25日	50	9月11日
福井南部	雨よけ	初紅	7月17日	55	9月11日
		ウインターチェリー	7月19日	48	9月11日
		晴姿	7月25日	50	9月11日
永平寺	雨よけ	初紅	7月16日	55	9月11日
		晴姿	7月25日	50	9月11日

3cm)である。一部の圃場では湿害のため生育にバラツキがあり、一部に「チョウ目」害虫の食害がみられる。

勝山市北谷で生産されている枝物は、サンゴミズキ等が9月中旬より出荷されている。

坂井の「オータムヴィオレ」は80~90cm、蕾径15mm(9月14日調査)であった。電照栽培のアスターは主にステラシリーズが作付されており、7月7日~8月下旬まで電照、9月中下旬から出荷されている。ハダニ類、オンシツコナジラミが多発生。あわらの福井ユリ「リリブライトレッド」は葉数4、草丈4.5cmである。

## 対 策

### 1 8、9月咲きギク親株のハウス搬入と管理

- 1) 親株のハウス内への植え付け適期は11月上旬までである。キクの根は地温が5~6℃以下になると、新根の発生が悪くなるので、奥越地域や山間部では搬入を早めに行うことを励行する。
- 2) ハウス内に床幅90cm前後、高さ20cm程度の畝を準備する。土寄せ苗を7×10cm間隔で植え付ける。苗(親株)は太くがっしりした花芽のついていないものを選んで植える。
- 3) 植え付け床が乾いている場合は、1日前に灌水し適湿にしておく。
- 4) 植え付け後は月に1~2回、ジマンダイセンフロアブルやコロナフロアブルで予防散布を励行する。白さび病が発生した場合は、病葉を取り除いた後にサプロール乳剤等の治療剤を散布するが、最近では各地域でサプロール乳剤の耐性菌がみられるため、E B I剤の散布回数は最小限にとどめる。害虫では特にアザミウマ類、ダニ類の発生があるので、葉裏、生長点を中心に殺虫剤、殺ダニ剤の散布を行い、圃場持ち込みを防止する。
- 5) チョウ目害虫は卵から初齢幼虫時が小さいため持ち込みがちであり、プリンスフロアブル等で抑制することも重要である。二州地区や奥越の一部では、キクモンサビダニの加害痕である紋々病が本年度見られた。生長点付近に重点的に殺ダニ剤を散布し、親株圃に蔓延しないよう留意する。
- 6) 植え付け後は保温等を行い、速やかに活着させる。その後、ハウスのサイド側のビニールを奥越では12月、若狭地域では1月下旬までは開放する。
- 7) 低温時の灌水はできるだけ控える。特に植え付けが遅れた場合に土壤水分が高い過湿状態では、活着不良になる場合がある。また、灌水する場合は晴天日の10時ごろがよく、灌水後は換気を十分に行う。

### 2 ストックの管理

- 1) 昼間の気温が高いと軟弱徒長しやすい。さらに菌核病が発生するので換気に十分注意する。夜温が8~10℃以下になれば、夜間はサイドビニールを閉めて保温するが、気温と湿度の上昇を防ぐため、晴天時には朝のうちにサイドビニールを開放して十分に換気する。
- 2) ストックのホウ素欠乏症は、葉、茎、花の各部位に発現し、葉の表皮の白化、茎割れ、茎の褐色斑点、開花異常の症状として現れる。定植時にホウ砂を1kg/a施用(ホウ素として0.36kg/a)すると発生を防止できる。
- 3) 出蕾を始めたなら灌水、液肥施用は中止し、茎葉を硬くしめる。粘質土等乾きの遅い圃場では、さらに早めにこれらの対策を行う。
- 4) 菌核病は、連作地で発蕾期から発生し、株元から褐変して立枯れ症状で枯死する。灌水は午前中に済ませて株元の乾燥を図り、ポリベリン水和剤やトップジンM水和剤を

散布する。

- 5) 収穫適期は3～4輪が開花した時（市場によって多少異なる）を目安とし、手で株を引き抜いて収穫する。抜いた株は株元の緑色の部分で切り戻し、花穂が曲がらないよう真っ直ぐに立てて水あげする。
- 6) 害虫では特にコナガ類の発生があるので、登録のある薬剤を定期的にローテーション散布し徹底防除する。

### 3 トルコギキョウの定植作業

- 1) 栽培期間が長いため、特に土づくりが重要である。優良堆肥を2～3 t / 10a 施用し、30cm以上の深さで耕起する。また多湿にならないように、暗渠など排水対策を行う。
- 2) 無加温ハウスでは、遅くとも11月中旬までに植え付けをする。植え付け日の1週間程度前からハウスを密閉して、地温を十分あげてから植え付けする。
- 3) 本葉4枚になると茎立ち始めるので茎立ち前に定植する。
- 4) 植え付けは、晴天日の午前中か、暖かい曇天の日に済ませる。
- 5) 多湿条件下では、灰色かび病が発生しやすいので換気を十分に行い、灰色かび病等の防除にゲッター水和剤等の薬剤による防除を励行する。
- 6) 育苗箱と植え付け後に液肥500～1000倍を根付け肥として施用する。

### 4 スイセンの管理

- 1) 今年は降水量が多いが、圃場の灌排水をしっかり行い適湿にする。  
季咲スイセンでは、9月上中旬に土壤水分が安定しないと開花期が遅れる傾向があるので、前年に葉先枯病の発生が少なく、用水が確保できる圃場では灌排水をこまめに行う。
- 2) 促成栽培は温度と灌水管管理を十分に行い、品質の良い花を生産する。遮光資材の取り外しは、気温25℃以下になった時点を目安とし、曇天の時に行う。促成栽培の灌水は9月下旬まで土壤水分を見ながら継続し、それ以降は灌水を停止し、根腐れ防止のため、溝さらえ等圃場排水を徹底する。
- 3) 出芽時にゲッター水和剤1000倍液で灰色かび病等の防除をする。
- 4) 球根養成圃場の準備  
球根養成圃場では、PK化成をa当たり5kg、マグフミン等の石灰資材を10kg施す。
- 5) イノシシ等獣害対策の実施  
イノシシはミミズを食べるため、球根を掘り起こす。電気柵を張ったところでは、草刈や漏電防止の再確認も十分に行う。



斑点病の病徴

## 5 福井ユリの定植作業

- 1) 定植適期は各品種とも 11 月下旬～12 月上旬であるので、圃場の準備を進める。
- 2) ハウス周辺の排水対策を行い、定植 14 日前を目処に石灰類 10kg/a、ようりん 4 kg/a、堆肥 300kg/a を施用し、土壌酸度を pH5.5～6.5 に調整する。
- 3) 施肥は定植 7 日前に有機質肥料(N-P-K=6-5-5)30kg/a、草木加里 1kg/a を全量基肥とし、EC を 0.8mS/cm 程度とする。
- 4) 畝は畝幅 120 cm (天幅 90 cm) で、栽植密度 12 cm×12 cm の 6 条植えを基本とする。分球している球根は 15 cm×20 cm に定植し、芽立ち後 2 本に整理する。球根の覆土は 7 cm とする。

## 6 完熟堆肥の積み込み

施設栽培では、良品生産、連作障害回避のため、良質堆肥が必要である。

- 1) 本圃面積 10a に対し、水田 30a 分の稲わらを積み込む。
- 2) 稲わらにススキ (3 cm 程度に細かく切断したもの) を半分位混合して積み込むと、長持ちする良質の堆肥ができる。市販のモミガラ堆肥も積み込むことで、完熟に近くなる。
- 3) 積み込む場合、10a 分の稲わら (500～600kg) に、水 1 トン弱と窒素分を補うため石灰窒素か硫安などを 20kg 程度加え、積み込む。発熱後に、2～3 回の切り返しを行う。なお、リン酸分も加えるとリン酸の肥効が高まる。